

「液化石油ガス燃焼器接続用継手付ホース技術基準(KHK S 0721)改正案」に係る
テクニカルレビューの結果及び対応案について

テクニカルレビューで提出いただいたご意見	ご意見に対する技術委員へ対応案
<p>上記当該箇所では、継手の一端に加える衝撃負荷を「衝撃値」と称している。</p> <p>一般に機械工学の分野では材料の衝撃試験時の吸収エネルギーを「衝撃値」と呼ぶ。すなわち材料の破壊靱性値の尺度として用いられる物性値。本来、本規格では継手に加える衝撃荷重を意味しているわけであるから、誤解を避けるため「衝撃荷重」または「衝撃負荷」とすべきではないか？</p>	<p>① 本規格で継手部分への衝撃試験において使用している「衝撃値」につきましては、「JIS S 2135 ガス器具用迅速継手」の衝撃試験と整合をとり「衝撃値」を使用していました。</p> <p>しかしながら、他のJIS規格を調査したところ、必ずしも用語が統一されていないことが判明致しました。</p> <p>② そのため、編集上の修正をすることとしたい。</p>
<p>(1) 4ページ改正案・検査方法(7)の5行目：「幅10cm」 この他では「m」または「mm」が使われていますので、「100mm」としては如何でしょうか。</p> <p>(2) 4ページ改正案・検査方法(7)の8行目からの表： 呼び14と呼び20の流量が0.5から5と10倍になっています。 正しいでしょうか？</p>	<p>(1) 及び(3)の意見については、編集上の修正をすることとしたい。</p>
<p>(3) 7ページ改正案・検査方法(1)の1行目：「ィ」は不要？</p>	<p>(2)の意見は、次のとおり正しい数値となっている旨、回答することとしたい。</p> <p>＜耐閉塞試験における試験流量根拠＞ 現行規格4.(7)の耐閉塞試験は、「JIS S 2144 ガス用強化ゴムアッセンブリー」の規格を準用し呼び9.5から呼び14までの試験流量を0.5m³/hと規定していました。</p> <p>今回規格に追加しました呼び20及び呼び25に関する試験流量は、前記「JIS S 2144 ガス用強化ゴムアッセンブリー」に規定されていないことから強化ホースのJIS規格である「JIS K 6351 ガス用強化ゴムホース」の基準を準用することとしたため、耐閉塞試験における呼び20の試験流量を5m³/h（呼び25の試験流量は10m³/h）としました。</p>